



東北復興 PSW にゆうす

新年明けましておめでとうございます。この東北復興 PSW にゆうすは、創刊から 50 号を迎えました。そして今年には東日本大震災から 10 年目を迎えます。

昨年は、コロナ禍の影響により全国大会での物販事業や、復興支縁ツアーが中止となりました。今号では、全国大会・学術集会会場での物販に商品をご提供いただく予定だった福島の事業所よりメッセージをお寄せいただきました。また、復興支縁ツアーも新しい形での開催を試みます。

コロナ禍の情勢は続きますが、この東北復興 PSW にゆうすを通じて、東北の今を、そして委員会の取り組みを発信していきます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

(東日本大震災復興支援委員会一同)

コーヒータイム 橋本 由利子

NPO 法人コーヒータイム（浪江町）と NPO 法人あおば（双葉町）の事業所は今でも帰還困難区域域内にあり、避難先である二本松市と福島市で再開を果たしました。また、NPO 法人ほっと悠と NPO 法人あさがおは、原発から 20 キロ圏外ではありましたが一時避難をした事業所で、しばらく休業したあと同じ場所で再開した事業所です。再開当初は元々の委託作業や農作業の仕事もなくなり、放射能という見えない恐怖に不安ばかりの毎日でしたが、多くの皆さまからのご支援で今日に至っています。その中でも、東日本大震災復興支援委員会の皆さまには全国大会のたびに 4 事業所の製品を集めてくださり、大会期間中ずうっと販売に携わっていてくださっていたと聞いています。委員会の方々の熱い思いは、原発事故で影響を受けた事業所に「頑張っね、応援しているよ」とエールを送っていただいていると、感謝の気持ちでいっぱいです。

間もなく震災から 10 年の節目の年を迎えようとしています。避難してあらたな地域で活動している事業所も、元の地域で頑張っている事業所も利用者の幸せを願いながら、少しずつ前に前進しています。これからも、日本精神保健福祉士協会の皆さまには今までのご支援に感謝しつつも、私たちを見守っていただきますようお願いいたします。

つながりのボールペン

ふくしまの障がいのある人たちが、やさしい風合いの『さおり織り』の糸をひとつひとつ丁寧に巻いて作っています！



糸の配色は、
利用者さんが選びました！

1本 250円



メンバー一同と（※写真掲載の了解は得ています）

委員会活動「検証作業中 中間報告」 ～東北3県支部・県（協）会へのヒアリング～

本紙でも度々お知らせしてまいりましたが、当委員会では委員会設置以降、実施してきた事業についての検証作業に取り組んでいます。その一環として、2019年夏、岩手県・宮城県・福島県の各支部・県（協）会を訪問し、各被災地の課題や委員会への意見、要望等のヒアリングを行いました。今回は、ヒアリングを通して浮き彫りにされた課題等、紙面の都合上ごく一部となりますがご報告いたします。なお、他の検証内容も含めた報告書を作成し、Webサイトに掲載することを予定しています。

菅野 直樹（福島県支部）／東日本大震災復興支援委員会委員長

- 目的：委員会活動の実績や課題を整理し、足跡を検証する
- 対象：岩手県・宮城県・福島県の各支部・県（協）会
- 方法：グループインタビュー

この訪問では「被災後、時期（フェーズ）によって立場性（例：家族→職場→職能団体）が変わった」「事務局と連絡が取れず混乱した」など当時の苦労や葛藤が語られたほか、「人の交流が見えなくなっている」という環境面の課題や「携わらないと忘れていく。温度が下がる」など意識面の課題が聞かれました。また、「災害支援を普遍化して欲しい（≒災害支援には職場の理解も必要）」という強い想いが寄せられました。それは、「知見を具体的に伝えていく」「受援力の中で専門職としての役割を明確にする」「（震災時は現場が混乱するので）被害のない県に動いてもらうよう、県よりもエリアで考える形が重要」などの語りからも伺い知ることができたように思います。

あの震災から、これだけの時間が経過しても聞かれる言葉。現在だから語られる言葉の重み。被災・避難者だけではなく、ややもすると、私たち自身も意識しなければ、こうした課題は潜在化しやすいことを改めて気付かされた、とても印象的な語りばかりでした。

経験を言葉に。言葉を形にすることが当委員会に課せられた役割期待の一つであることを改めて実感した訪問ヒアリングでした。被災地内外において災害支援の普遍化に寄与できるよう、本検証作業をさらに進めていければと思います。

「復興支“縁”ツアー」は「オンライン交流会」へ

毎年実施してきた復興支“縁”ツアー。このコロナ禍で、前年度（2020年3月）は開催中止を余儀なくされました。しかし、今年度は、名称と形を変えて開催！ 私たちが大切にしたい“縁”（えん：ゆかり）。人のつながり・交流。この時期だからこそ、オンラインで集い、語りましょう。皆さまとお会いできることを楽しみにしています。^^



【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会 Web サイトにてご紹介させていただきます（原則として投稿者氏名以外の個人情報は掲載いたしません）。

お届け先：復興支援委員会 FAX もしくは E-mail: office@japsw.or.jp にてお願いいたします。

★題名に「PSWにゆうすについて」とご記入ください。★

第50号 2021年1月15日発行

編集：公益社団法人日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

発行：公益社団法人日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL: <http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>

